

今治出身の学生が考える海の駅の未来

BARI NewPort Festival step1の反省点・改善点を洗い出し、仲間になってほしい方々への発信がなかったことなどを話し合いました。その結果広報の文章やチラシの校正についてもより具体的な方向性を示すこととなりました。

オリエンテーション 平成24年8月24日(金)
今治市出身の9名の学生は2班に分かれ3日間のワークショップへ。スタッフ紹介、自己紹介等行い3日間の工程を事務局から説明しました。その後みなと再生事業配置計画等を担当者からレクチャーを受けた後、みなとのフィールドワークへ。



ワーク1 みなとの印象をまとめる
フィールドワークで感じたみなとの印象を各班でまとめました。



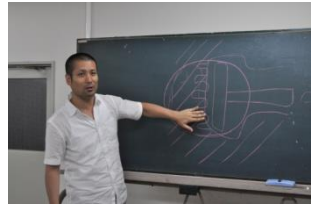
《魅力》
・近所のおじさんと話しやすい・しまなみ海道が見える・スケッチポイントがある
・木々が茂っている・風が気持ちいい・内港がいい・浮き桟橋が気持ちいい
《課題》
・スペースがあるのにもったいない・商店街への案内がない・子どもがいない
・使い方がわからない・雨が降った時はどうするのか？

ワーク2 平成24年8月25日(土)
一日目の内容を元に具体案を創る作業へ。昼から山崎亮さんも合流しヨットで海へ。

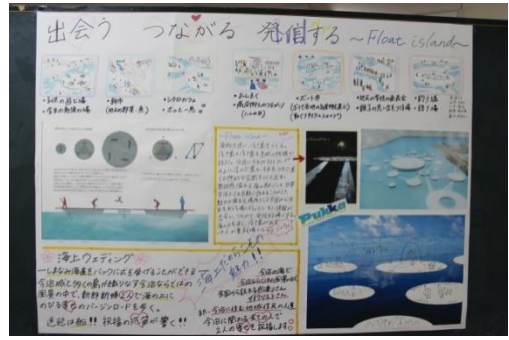


中間発表

今まで創ってきた案を山崎さんを交え発表しました。ハードに偏りすぎていたことへの修正や視野が狭くなっている事柄を俯瞰的にみることなど具体的な指摘がなされました。『使い方が風景になる』という考えを教えていただきました。



オリエンテーション 平成24年8月26日(日)
前日山崎さんの指摘を受け、深夜遅くまで案の方向性を考えた学生。最終日は完成にむけがんばりました。



学生の案をもとに提案書へ

- ▲難しい点
 - ・構造的に何かを創るのは難しい
 - ・船がつく海の駅という視点が抜けている
 - ・新設するのではなく既存のものを使って考える
 - △可能性
 - ・新しいものを浮かべるのは現時点では不可能
 - ⇒第三桟橋自体を使う考えに転換できないか。
 - 第三桟橋で結婚式を行ってもらえるストーリーは？
 - ・第三桟橋自体をフロートアイランドとして考えてほしい
 - ・陸でできることと海の上でしかできないことをわけて考えてみる

- ★学生の提案を受けて見えてきた海の駅の視点
- 1) 海の駅にほしい基本機能
 - 2) 交流をうむ仕組み(しかけ)
 - 3) 海からの来場者のための仕組み(しかけ)
 - 4) 海の駅で展開可能な事業
- 以上の点を踏まえ具体的ななしかけを盛り込んだ提案書を作成

平成24年8月24日～26日
今治市港湾ビル 4F
参加 今治市出身学生9名
コーディネイト Studio-L
山崎 亮・神庭慎次

プログラム
 <1日目>
 13:00～ 開会式
 13:30～ みなと再生の経緯
 14:50～ 自己紹介
 アイスブレイク
 15:50～ フィールドワーク
 みなと再生区域
 17:20～ ワーク1
 みなとの印象を整理
 18:30～懇親会
 <2日目>
 10:00～ ワーク2
 コンセプト設定
 13:00～ ヨットクルージング
 16:30～ 中間発表 山崎亮講評
 17:00～ ワーク3 案作成
 <3日目>
 10:00～16:00 ワーク4 案作成
 16:00～ 各班発表
 17:00～ 閉会式

